

## 基 調 講 演

テーマ：山陰地域における災害データベースの構築及び防災拠点の形成  
講 師：島根大学大学院総合理工学研究科 教授 汪 尧武



### 略歴

1986年に中国・長春地質学院卒業、1989年に同大学で修士取得。1995年に来日、1999年に京都大学博士（理学）取得。金沢大学講師・助教授、京都大学助教、島根大学准教授を経て、2012年10月より現職。

### 研究活動・著書他

主にダム建設による地すべり、地震・降雨による地すべり、海底地すべりなどの発生・運動機構を研究し、地すべり運動範囲予測法の開発に携わってきた。現在、土砂ダムの決壊機構及びその前兆現象の抽出や予測法の開発、山陰地域の災害データベースの構築及び防災拠点の形成に取り組んでいる。編著書には「山陰地域の斜面災害」、「Landslide Disaster Mitigation in Three Gorges Reservoir, China」、「Progress of Geo-disaster Mitigation Technology in Asia」などがある。現在、島根大学自然災害軽減プロジェクトセンター長、NPO 法人国際地盤災害軽減機構理事長を務めている。

### 講演概要等

中国地方では日本海側の山陰地域を含めて地震災害、斜面災害、地盤災害、洪水災害が頻発し、地域の生活や社会に大きな影響を与えてきた。例えば、災害史に残っているものとして、1872年発生した浜田地震(M7.1)、1943年鳥取地震(M7.2)、1964年山陰北陸豪雨災害、昭和58年7月豪雨災害(1983年、山陰中心)などがあり、この10数年間でも、1999年広島県土石流災害、2000年鳥取県西部地震、2009年山口県防府土石流災害、2010年松江市恵曇落石災害、2010年広島県庄原群発斜面災害、2011年豪雪災害・斜面災害、2013年7月山口県萩市・島根県津和野町激甚災害、2013年8月島根県江津市・邑南町激甚災害などがある。災害の発生要因には、地域性が強く関係する。比較的なだらかな山地や丘陵が多く、居住区域が内陸の中山間地域に広がっている中国地方では、広大な沖積平野に立地する大都市とは災害の性質が大きく異なっているし、発生時の対応も異なるであろう。このため、効果的の防災・減災を実施するために、地域の災害データベース構築は重要であり、防災・減災拠点の形成が地域住民、行政機関やマスメディアと連携をすることによって自然災害の防災や減災に大きく貢献できる。

本講演は、山陰地域の災害データベースの現状を紹介するとともに、特に最近発生した災害事例を分析し、安全・安心な社会を目指して、社会資本の予防保全のために、現行の調査方法、設計基準をどう直すべきか、そして、持続可能で活力ある国土・地域づくりの方策についても検討する。